



[特集]
友の会
総会

第3年度 新役員体制へ期待

ニーズが高い古文書講座、多彩な見学会も
竹内館長記念講演「両国の花火～江戸の夕涼み～」

江戸東京博物館友の会第3回定期総会は、5月28日(水)午後1時半から1階ホールで開催されました。

柏木静会員の司会で開会した総会は、山本市郎会長のあいさつ(別掲)に続いて、来賓の山本新副館長から祝辞をいただいた後、議長団を選出して議事に入りました。

議長団は、玉木達二議長(所属部会なし)、兄玉知子副議長(総務部会)、岡橋園子(広報部会)・谷岡文彦(事業部会)両書記の4名。

冒頭、玉木議長から、本日の出席者は96名、議決権行使書提出者は415名の計511名で、総会招集通知発送数840名の過半数に達し、総会が成立したことが報告されました。

上程議案は以下の通りです。

- 1) 平成14年度事業報告並びに収支決算報告

2) 監査報告

3) 平成15年度 事業計画案

4) 平成15年度 事業計画予算案

5) 役員選出(改選)

議事は滞りなく進められ、議案はすべて圧倒的多数の挙手によって可決されました。

なかでも事業計画については、各種セミナーやニーズの高い古文書講座に加え、多彩な見学会が予定されており、活動の一層の充実が期待されます。(計画概要別掲)

総会は午後3時すぎに閉会となり、休憩。竹内館長は総会記念講演「両国の花火～江戸の夕涼み～」で、江戸の文化・知恵を見つめ、江戸に学ぼう、と提唱されました。

午後5時から、会場を2階のレストラン「モア」に移して、会員相互の歓談や交流の時間を過ごしました。



ハ・イ・ラ・イ・ト

- 5月28日開催の第3回 2003年度友の会定期総会特集号です。
- 特集 友の会総会
 - ・会長あいさつ 山本市郎
 - ・平成14年度 活動報告/決算報告
 - ・平成15年度 事業計画/事業予算
 - ・役員選出(改選)
 - ・スナップ・ショット
- 総会記念講演 竹内誠館長
「両国の花火～江戸の夕涼み～」
- セミナーなどの活動報告
 - ・4/9 セミナー「旧新橋停車場」
 - ・4/10 特別内覧会「武蔵 展」
- 歴史系博物館アンケート結果
- えど友プラザ 会員投稿のページ
- 〈江戸博クリップ〉学芸員エッセー
- [シリーズ]ミュージアムショップ
名店めぐり(6)千代紙「いせ辰」
- 事業部会だより
- 会員優待のお知らせ——
「発掘された日本列島2003展」
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽に寄せてください。

◆ 会員継続更新のお知らせ ◆

●手続きはお早めに！

友の会は会員の皆さんで支えられています。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き書類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

* 更新しないと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

会長あいさつ

発展する友の会へ

友の会会長 山本 市郎



3年目に入り、時の流れを感じます。俳人芭蕉は元禄2年(1689)3月、深川から奥の細道2500キロ、5ヵ月

の旅に出て、「月日は百代の過客にして…」とつぶやきました。月、年、人は歴史の旅人です。明暦の大火のあとに元禄文化が開化し、江戸っ子の心意気と活力がみなぎっていて江戸の繁栄がもたらされました。私たちは今、長い歴史の一瞬にいます。友の会を自分史の記録にしていきたいと思います。

友の会は会員840名(総会時点)のご理解とご支援を得て、江戸東京博物館との協力を基本に活動し、その成果は会報『えど友』やホームページ

でご覧いただいているとおりです。

本年は開館10周年にあたり、友の会ではショー・ザ・フラッグ(目に見える形)として資料の寄贈(友の会コレクション)、また家族会員制度の検討—などの施策を考えています。

2年間に培った実績をもとに一歩一歩、活動のさらなる充実、高品質の追求をめざし、すべての会員によるボランティア活動としてご協力をいただきながら、発展する友の会にしていきたいと思います。

多岐に活動、第2年度の成果

—増えた参加者、ホームページ開設など—

(第1号議案)

平成14年度 事業報告

平成14年度はセミナー、古文書講座など多岐に活動を展開し、ホームページ開設、会員募集活動などの成果を挙げました。実施した事業概要(要旨)は以下のとおりです。

■事業部会

事業名	開催回数	参加者数
友の会セミナー	5	234
古文書講座入門	3期各3回	421
〃 初級	3期各3回	510
創作体験講座	1	19
見学会	2	124
企画展内覧会	6	322
延べ数	32	1,630

■広報部会

会報『えど友』は、会員と友の会を結ぶコミュニケーション情報誌として編集発行。年度中に隔月(奇数月)、毎号8ページ建てで6号(回)発行しました。

迅速な情報提供のため友の会の広報告知媒体としてホームページ「えど友Web版」を平成14年9月に自主運用で開設しました。

新規会員募集、入会者向けに『えど友PR版・入会案内号』(A4判、4ページ)を新たに制作しました。

都内・歴史系博物館との交流をめざしてアンケート調査を実施しました。今後の情報交換の基礎資料にします。

■総務部会

総会の準備と運営、事業活動の側面的支援を実施しました。

会員募集活動は「大江戸八百八町展」の会場入口周辺で1月12、18、19、25日に入会案内パンフを配布して、友の会PRと入会を呼びかけました。

■その他

会員状況

・会員数

平成14年3月末現在 826名

平成15年3月末現在 872名

・会員構成 別表のとおり

平成14年度 収支決算報告

別表 収支決算書のとおり

平成14年度 監査報告

別表 監査報告書のとおり

監査報告書

江戸東京博物館友の会規約第7条の8項の規定に基づき、私は平成14年4月1日から平成15年3月31日までの平成14年度友の会活動の執行を監査しました。その結果以下の通り報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、役員会その他重要な会議に出席するとともに、運営委員会から活動の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、活動の運営並びに収支に関する会計帳簿・証憑等の調査を行い、収支決算書類の内容につき検討しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業活動報告は、目的に従い、活動の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 会計伝票・帳簿類は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致しているものと認めます。
- (3) 収支決算書は会計原則に則り収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 次期繰越金残高は、手許現金残高ならびに郵便局振替口座残高、銀行預金残高の合計と合致していることを認めます。
- (5) 友の会役員の職務遂行に関する不正行為又は、法令もしくは友の会の規約に違反する事実は認められません。

平成15年4月22日

江戸東京博物館友の会
監事 大谷 善四郎◎

本年度の事業計画・予算決まる

— 充実の企画で、活発な活動へ —

(第2号議案)

平成15年度 事業計画

友の会発足2年目となった前年度は事業活動全般にわたり、博物館からの協力・支援を得ながらも徐々に自立的な事業の展開を図り、運営委員会の3部会会員の積極的な取り組みと活動で活発に展開されました。会員数も前年度を上回り、安定を確保しています。

■基本方針

要望をもとに、活動へ反映

本年度は前年度の成果と反省を踏まえて、次の事項を基本的な活動方針とします。

1. 会員の要望をより一層吸い上げて事業活動への反映を図り、会員が自覚を持てるような事業活動の充実を図ります。
2. 既会員の継続と新会員の増強を図ります。
3. 博物館からの協力を得ながら、自主的な事業展開を推進する体制をつくります。

制をつくります。

4. 計画された事業へ、より多くの会員の積極的な参画を図ります。
5. 会員相互のコミュニケーションを図る機会を設けます。
6. 本年度は当博物館開館10周年、江戸開府400年にあたり、記念事業などに積極的に協力します。

■事業部会

見学会、各種講座を充実

第1、2年度はセミナー重点でしたが、本年度はニーズの高い古文書講座と見学会、新計画のセミナーを実施します。

別表 事業活動計画(概要)のとおり

■広報部会

会報・ホームページの拡充

会報『えど友』の充実を図るとともに、ホームページの拡充などを通して、友の会活動を広報します。

1. 会報は年6回、隔月(奇数月)刊を維持します。
2. ホームページ「えど友Web版」で

最新情報を提供します。

3. 他の歴史系博物館友の会との交流・情報交換など、漸次拡大します。
4. 新会員の加入促進をめざし、館と連携してPR活動を充実します。

■総務部会

PR活動を積極的に展開

部会の活動目的—総会の運営、組織の充実、広報印刷物の発送など—に基づき、前年度に引き続き、部会員の積極的な参加で友の会活動の充実に努め、事業部会、広報部会との連携強化に尽力します。

1. 第3年目を迎えた本年度は、会員継続の減少傾向に対処して、会員数の増強を図るために、当博物館近隣区居住者に積極的なPR活動を展開して組織充実に努めます。
2. 総会の会場準備と運営ならびに事業活動の側面的サポートを実施します。
3. 会報ならびに広報印刷物の発送作業を随時実施します。

(第3号議案)

平成15年度 事業予算

別表 事業予算書のとおり

新役員を選出

— 増員して充実・強化 —

(第4号議案)

役員選出(改選)

友の会規約第7条9項により、前任役員の任期は平成15年3月31日で満了しました。

新役員は、同規約第7条2項の役員候補選考委員会で候補者を選出し、同第7条1項に基づき候補者を付議して総会で承認されました。

改選後の役員数はこれまでの9名を、4名増員して13名。うち再任6名、新任7名で友の会の充実・強化を期します。任期は2年。

平成15年度役員は別表のとおり

平成15年度 役員一覧

*任期2年 2003/5/28選出

役職	氏名	前役職・所属
会長	山本 市郎	会長
副会長	佐山 彪	副会長兼事務局長
副会長	大松 騏一	運営委員・広報部会長
会計	管林 義隆 (新任)	事業部会所属
会計	小笠原 淑夫 (新任)	総務部会所属
監事	大谷 善四郎	監事
監事	川島 幸雄	会計
運営委員・事業部会長	黒瀬 雅博 (新任)	事業部会所属
運営委員・広報部会長	松原 良 (新任)	事業部会所属
運営委員・総務部会長		
兼事務局長	岩松 精 (新任)	事業部会所属
運営委員	山口 千恵子	運営委員・事業部会長
運営委員	菅沼 和男 (新任)	広報部会所属
運営委員	藤永 昭彦 (新任)	事業部会所属

平成15年度 事業活動計画(概要)

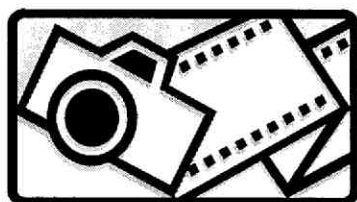
2003/5/28現在 事業部会、広報部会
(注)内容は変更になる場合があります。

年	月	会報	友の会セミナー	○見学会 ▲創作/★体験講座	古文書講座 ○数字は講座期*		企画展 特別内覧会
			テーマ/講師	テーマ/講師	入門	初級	テーマ・会期
平成15 (2003)	4		4/9 旧新橋停車場/原田勝正(和光大学名誉教授)				4/10 武蔵展 4/11-5/25
	5	◎					
	6			○6/21 鉄道唱歌見て歩き	①6/4	①6/18	6/2 発掘された日本列島展 6/3-7/9
	7	◎		▲7/12 江戸扇子/松井宏(江戸扇子職人)	①7/2	①7/16	7/18 徳川将軍家展 7/19-8/31
	8						
	9	◎	9/11 歌舞伎を楽しむ/葛西聖司(NHKエグゼクティブ・アナウンサー)	○根岸落語ゆかりの地と豆腐料理 ★能と狂言を見る会	①9/3	①9/17	東京ライフスタイル展(仮称) 9/13-11/16
	10		小説から見る江戸400年/井上謙(元日本大学教授、近畿大学教授)	▲江戸友禅	②10/8	②10/22	
	11	◎	江戸幕府代官の実像と虚像/村上直(法政大学名誉教授)	○行徳に武蔵を訪ねる	②11/5	②11/19	平賀源内展(仮称)11/29-1/18
平成16 (2004)	12			★能と狂言を見る会	②12/17	②12/24	
	1	◎			③1/14	③1/21	
	2		(注)上記のほか、2回開催予定。時期未定	○上野公園めぐり	③2/4	③2/18	円山応挙展(仮称) 2/3-3/21
	3	◎		▲江戸切子	③3/10	③3/24	

*古文書講座講師 (各講師とも学習院大学大学院史学専攻)

「入門編」第1期=小宮山敏和、第2期=西村慎太郎、第3期=野尻泰弘

「初級編」第1期=野尻泰弘、第2期=小宮山敏和、第3期=西村慎太郎



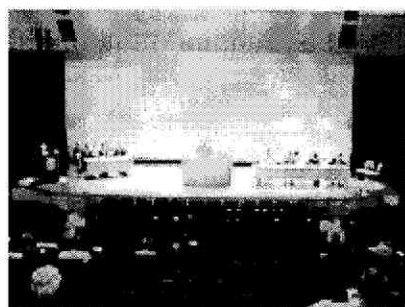
第3回友の会総会 スナップショット 2003/5/28



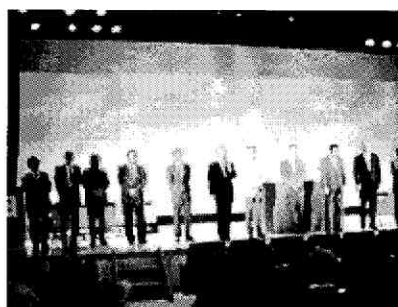
総会会場のホール入口、受付



来賓の山本副館長



総会ホール全景



改選された新役員の紹介



懇親会会場=2階「レストラン・モア」

【写真】いずれも広報部会・巻淵 彰

平成14年度 収支決算書
〔平成14年4月1日～平成15年3月31日〕

●収入の部

(単位:円)

費目	予算	実績	差異(予算-実績)	備考
会費	2,804,000	3,488,000	-684,000	会員数: 予算701名、実績872名 講座、セミナー、懇親会など
事業収入	240,000	752,000	-512,000	
受取利息	100	73	27	
小計	3,044,100	4,240,073	-1,195,973	
前年度繰越金	1,685,907	1,685,907	—	
合計	4,730,007	5,925,980	-1,195,973	

●支出の部

	費目	予算	実績	差異(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	200,000	0	200,000	会員ボランティアで対処
	会議費	20,000	4,460	15,540	湯茶費用
	交通費	10,000	0	10,000	
	切手・ハガキ代	100,000	220,180	-120,180	会員連絡、更新手続きなど郵送料
	事務用器具備品費	100,000	65,404	34,596	デジカメ購入
	事務用消耗品費	80,000	54,637	25,363	
	封筒印刷代	500,000	73,500	426,500	封筒印刷代
	印紙代	10,000	0	10,000	
	振込手数料	60,000	62,825	-2,825	会費払込料負担金、銀行手数料
	小計	1,080,000	481,006	598,994	
事業活動費用	会議費	200,000	261,845	-61,845	会員交流会、3部会合同会議
	講師謝礼・交通費	600,000	656,000	-56,000	セミナー・講座講師・車代
	会報等郵送料	1,300,000	1,313,309	-13,309	会報6回、その他郵送料
	器具備品費	50,000	0	50,000	
	消耗品費	100,000	144,955	-44,955	えど友手旗、友禅材料代など
	会報印刷費	300,000	222,300	77,700	会報印刷代
	会議室使用料	200,000	150,250	49,750	会議室賃借料
	見学会保険料	20,000	4,350	15,650	見学会傷害保険料(2回)
	部会活動助成金	50,000	0	50,000	
	内覧会チケット代金	350,000	176,100	173,900	内覧会チケット・図録負担費
	小計	3,170,000	2,929,109	240,891	
	費用合計	4,250,000	3,410,115	839,885	
	次年度繰越金	480,007	2,515,865	-2,035,858	
	合計	4,730,007	5,925,980	-1,195,973	

資産負債書

〔平成15年3月31日現在〕

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	178,185	前受会費	32,000
銀行預金(普通預金)	2,200,660	次年度繰越金	2,515,865
郵便局振替口座	169,020		
計	2,547,865	計	2,547,865

会員構成

(平成15年3月末現在)

年代	男	女	計	構成比
10代	0	1	1	0.1%
20代	7	3	10	1.1%
30代	25	18	43	4.9%
40代	43	35	78	8.9%
50代	94	72	166	19.0%
60代	199	93	292	33.5%
70代	155	63	218	25.0%
80代	32	4	36	4.1%
90代	1	0	1	0.1%
不明	6	21	27	3.1%
計	562	310	872	100.0%
前年	497	329	826	—

備品一覧表 (注)資産計上なし〔平成15年3月31日現在〕 (単位:円)

番号	品名	数量	取得年月日	取得金額	備考
1	携帯デジレコーダー	1	平成13.11.12	29,247	東芝製
2	デジタルカメラ	1	平成14.10.11	65,404	オリンパス製

平成15年度 事業予算書
〔平成15年4月1日～平成16年3月31日〕

●収入の部

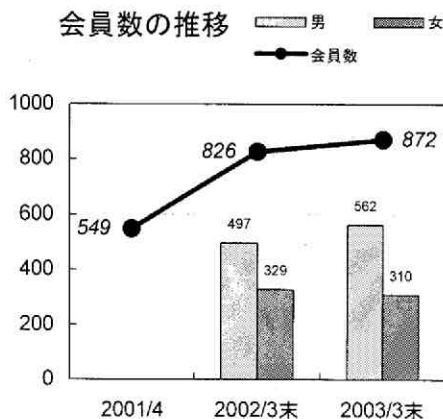
(単位:円)

費目	15年度予算	14年度実績	増減(予算-実績)	備考
会費	3,440,000	3,488,000	-48,000	継続560名+新規300名=計860名
事業収入	880,000	752,000	128,000	セミナー、古文書講座、内覧会など参加費
受取利息	100	73	27	
小計	4,320,100	4,240,073	80,027	
前年度繰越金	2,515,865	1,685,907	829,928	
合計	6,835,965	5,925,980	909,985	

●支出の部

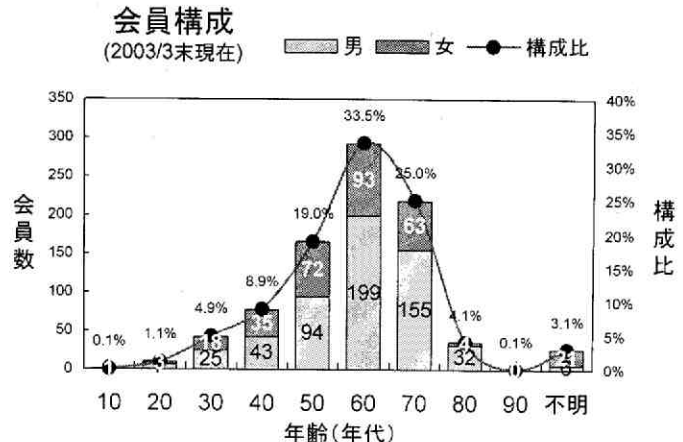
	費目	15年度予算	14年度実績	増減(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	200,000	0	200,000	事務作業緊急対応
	会議費	20,000	4,460	15,540	湯茶費用
	交通費	5,000	0	5,000	事務局行動費
	切手・ハガキ代	350,000	220,180	129,820	事務連絡費用
	事務用器具備品費	50,000	65,404	-15,404	PC関連機器費用
	事務用消耗品費	100,000	54,637	45,363	事務用品など
	印刷費	680,000	73,500	606,500	封筒、入会パンフレット、会員証印刷
	印紙代	5,000	0	5,000	
	振込手数料	90,000	62,825	27,175	会費払込料負担金、銀行手数料
	小計	1,500,000	481,006	1,018,994	
事業活動費用	会議費	400,000	261,845	138,155	会員交流会、3部会合同会議
	講師謝礼・交通費	1,200,000	656,000	544,000	前年実績+開府400年記念セミナー
	会報等郵送料	1,650,000	1,313,309	336,691	会報6回、江戸博NEWS、案内など
	器具備品費	50,000	0	50,000	不測発生に備え計上
	消耗品費	200,000	144,955	55,045	体験講座材料費、写真代など
	会報等印刷費	480,000	222,300	257,700	会報6回、PRチラシなど
	会議室使用料	250,000	150,250	99,750	会議室等賃借料
	見学会保険料	10,000	4,350	5,650	外部見学会(4回)傷害保険料
	内覧会チケット代金	200,000	176,100	23,900	内覧会6回チケット
	予備費	400,000	0	400,000	江戸博10周年記念品贈呈
	小計	4,840,000	2,929,109	1,910,891	
費用合計		6,340,000	3,410,115	2,929,885	
次年度繰越金		495,965	2,515,865	-2,019,900	
合計		6,835,965	5,925,980	909,985	

会員数の推移



会員構成

(2003/3末現在)





両国の花火 ～江戸の夕涼み～

江戸東京博物館 館長 竹内 誠

■いまなぜ開府400年なのか

今日は5月28日。旧暦でいえば両国の川開きの日です。それでこの講演をお引き受けした時に、講演日に合わせて「両国の花火」の話にさせていただきました。

さて、今年は江戸東京博物館の開館10周年ですが、同時に江戸開府400年の節目にも当たります。そこでいろいろな行事をして大勢の皆さんに来ていただきたいと思っています。

開府400年だといって、今なぜお祭りをするのでしょうか。江戸時代は太平の世が250年以上も続いて、経済も文化も発展しました。しかし、現在は、経済も政治も不透明で心配なことが多いし、21世紀は戦争で始まってしまいました。

そこで、もう一度、江戸の知恵に学びたいという思いがあります。たとえば江戸の手わざには素晴らしいものがあります。浮世絵ひとつ見てもわかりますが、その技と知恵を広く知っていただきたい。江戸の文化を見直す情報を江戸東京博物館から発信していきたいと考えています。

■江戸東京 三つの夢

開府400年記念事業と関連して、私には三つの夢があります。

一つは歴史的・伝統的な町名を復活させることです。町の名の由来を知れば、地域への愛着も深まります。二つ目は、日本橋上の高速道路を取り払っていただくことです。そして三つ目は江戸城天守閣の復活です。明暦の大火で焼けて再建されなかったものですが、これを復興して

東京の目玉にしたいものです。

■四季彩都市の江戸

現代は「時は金なり」でとても忙しい生活ですが、江戸の人は実にのんびりしていて、時間がゆったり流れていました。時に追いかけていたのが現代人で、時を味わっていたのが江戸時代人といえます。

たとえば、春は花見、潮干狩り。夏の花火や螢狩り。秋になれば月見、菊見、紅葉狩り。冬も雪見を楽しみました。このように江戸は四季折々を楽しめる名所の多い「四季彩都市」だったのです。

■夏の風物詩 ―両国の花火―

絵は『東都歳事記』のうちの「初夏交加図」(しよかゆきかいのず)です。橋の上に蚊帳売が見え、「萌黄のかや〜〜」とのんびりした声で売り歩きました。天秤棒で荷を担いでいるのは初鰯売りです。川べりには子

供相手の菖蒲の太刀売りがいて、その手前に棒手振りの苗売りが見えます。また、右下のお侍の供の者が持っているのは兜人形で、初夏にはこういう風物詩がありました。

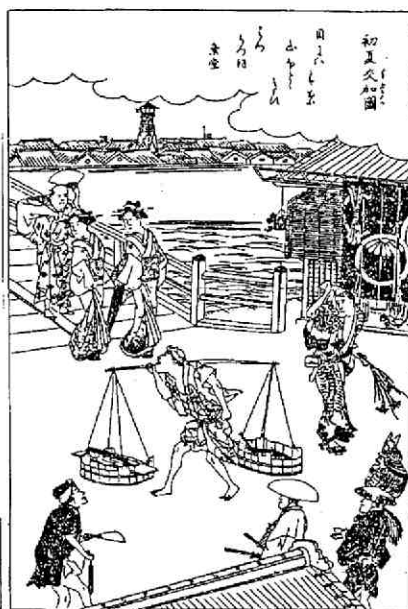
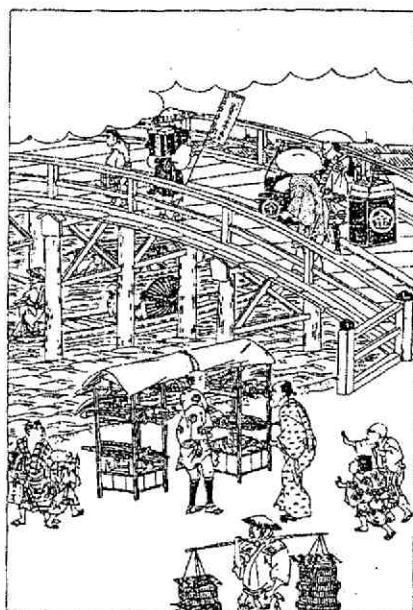
そして、いよいよ両国の花火です。5月28日の川開きから8月28日の川仕舞いまで3ヵ月間、毎日のように打ち上げられました。

両国は昼も賑やかな街でしたが、夜になると人々は夕涼みのために集まって来て、花火を楽しみ、飲んだり食べたりして涼をとりました。芝居小屋もあって、納涼センターであり、娯楽センターでもあったわけです。

陸上だけではなく、大川も夕涼みの舟遊びで賑わいました。屋形船は享和3年(1803)に31艘、屋根船は603艘にもものぼりました。船に乗って涼しい川風をいっぱい受けながら、三味線の音を聞き、うまい料理に舌鼓をうつ。それに花火が上がったら申し分ないでしょう。

この風景が5階の常設展示室にある両国橋盛り場の縮尺模型です。ぜんぶで人形が1500体もあって、それぞれ物語を持っています。ぜひもう一度見ていただきたいと思います。

【記録】広報部会・大松駿一



初夏交加図 『東都歳事記』(斎藤月岑編・長谷川雪旦画)から

汽笛一声新橋を・・・ 旧新橋停車場オープン ～新橋駅から汐留駅へ～東京最初のターミナルの歴史～

講師 原田 勝正さん(和光大学名誉教授)

なぜ、この地が選ばれたか

まず、ここでいう「新橋駅」は現在の
新橋駅ではなく、汐留であることをご
承知置きください。

いまの新橋駅は旅客専用としてつ
くられた烏森駅が1914年に改称され
たものです。本来の「新橋駅」はこの
とき汐留駅と名前を変えて、貨物駅
になりました。表題の「新橋駅」は
1872年10月15日(明治5年9月13日)
に開業した新橋駅です。この新橋駅
は131年におよぶ長い歴史を歩ん
できましたが、このたび駅本屋が再現さ
れて、4月10日にオープンしました。



さて、新橋駅は東京最初のターミ
ナル駅で、横浜駅に次いで2番目に
つくられました。なぜ汐留の地に決め
られたのかと申しますと、第1に用地
が無償で取得できたことが挙げられ
ます。江戸時代の仙台・会津・龍野の
3藩邸跡地6万3千坪余りを明治政府
が接收していて、鉄道の駅に転用す
ることが認められたからです。

第2に、皇居を守る上で重要な位
置にあったことです。当時は新橋駅
の北に運河が入り込んでいて、土橋
から外堀につながっていました。この
土橋に堰を設けて、潮の干満の影響
を防いだことから「汐留」という地名が

生まれたようです。

第3に、外国人居留地のあった明
石町に近いことがありました。これは
外国人がまだ珍しい時代で、トラブ
ルを防止するために重要でした。

また、経済・流通からの観点があり
ます。昔は浜離宮と新橋駅の間に水
路がありました。いま高速道路が走っ
ていますが、その下は川だったので
す。つまり、水陸の接点として意味が
あったわけです。さらに東海道との接
点でもあり、都心の商業中心地にも
接していました。これらがモメントに
なったのではないかと考えられます。

新橋駅の建設・開業

建設がスタートしたのは1870年(明
治3年)3月ですが、当時「駅」という言
葉はタブーでした。街道筋に宿駅が
残っていたからです。「駅」という呼び
名が正式に使われたのは、1921年
(大正10年)のことで、それまでは外来
語の「ステーション」ではなく、転じて
「ステンショ」と呼ばれていました。

その後、政府が提案した停車場(て
いしゃじょう)という呼び名が市民権を
得ていき、1921年に国有鉄道建設規
程で法制化され正式名称となりました。
駅・操車場・信号場の3つを含め
て「停車場」と呼ぶことは、今でも変
わっていません。

工事は汐留ステーションとして始
められました。しかし完成した明治5
年5月24日に、山尾庸三工部少輔が
「今後いくつかのターミナルが作られ
ていくだろう。汐留という名称はふさ
わしくないで、新橋に変えたい」と
上申しました。これによって「新橋ス

テーション」として発足したわけです。

7月の始めには、当時珍しかった
木骨石張りの駅本屋が完成し、2ヵ月
後の明治5年9月12日に開業式が挙
行されました。開業式には明治天皇
が親臨され、自ら開業の宣言をされ
ました。

新橋駅から汐留駅へ

再び「汐留駅」と呼ばれることにな
ったのは、東京駅の開業によりま
す。日清戦争が終わった頃、宮城と
向き合った地に中央停車場を作ろう
という動きが広がって東京駅がつく
られ、新しいターミナルになりました。
このため烏森駅が新橋駅となり、今ま
での新橋駅は汐留駅と改められた
のです。

このころ東京のターミナルは飯田
町・上野・両国・東京の4ヵ所でした。
ただし、東京駅と上野駅が結ばれた
のは大正14年、飯田町と両国が結ば
れたのは昭和7年です。これによって
東西南北の幹線が互いに接続でき
ることになりました。

汐留駅は東京南部の貨物駅とし
て発展し、扱い量も1917年に1日平
均約2千トンだったのが、37年には6
千トン、さらに62年8641トンとピークを
迎え、その後は減少していきます。東
京貨物ターミナルが73年に開業し、
起点が変更されましたが、このころ多
くの貨物がトラック輸送やコンテナに
移行して、鉄道が運ぶのは3つの
「セ」(セメント・石炭・石油)になったこ
とが大きな要因です。1954年には新
幹線が開業しますが、この年度から
国鉄の赤字が始まります。そして分
割民営化につながり、同時に貨物駅
の廃止という動きが起きてきます。

汐留駅はカートレインの発着駅と
して頑張ってきましたが、それも浜松
町に移り、1986年11月1日に民営化
に先立って廃止され、劇的な歴史の
中で使命を終えました。

【記録】広報部会・瀧口逸策

江戸東京博物館友の会 特別内覧会(2003/4/10)

【企画展】江戸開府400年・開館10周年記念

武蔵 MUSASHI 武人画家と剣豪の世界 展

江戸博では、「利家と松」に続く大河ドラマ協賛シリーズともいうべき「武蔵 武人画家と剣豪の世界展」を四月十一日から五月二十五日までの間開催しています。私達友の会の内覧会は、それに先立つ四月十日の開会式に合わせて、行われました。

午後六時からの開会式には、ドラマで武蔵役の市川新之助丈も、茨城県のロケ地から駆けつけ、花を添えました。

主催者側からは竹内館長が、宮本武蔵の実像と、吉川英治が画いた虚像を比較して見てほしいと挨拶し、宮本武蔵が江戸にも実際に来て

いたことを二行ばかり記した手紙が発見されているので、大いに研究してほしいとも付言がありました。

NHKの海老沢会長からは、大河ドラマは吉川英治の小説のように巖流島で終らず、その死までをドラマ化すること、NHKはドラマやドキュメンタリーの中で、日本人はどういう民族なのか見直そうという企画を持っていて、たとえばこの武蔵の他にも聖徳太子などを取り上げて「日本人が元気を取り戻す」番組を提供して行きたい、という意気込みが示されました。

市川新之助丈は茨城県で、鎖鎌(宍戸梅軒)との試合のロケ中だった

とのこと、暫くは歌舞伎出演を控えて武蔵に専念するそうです。インタビューに答えて、今回の武蔵は巖流島の後、島原の乱への従軍、晩年の五輪の書執筆や、死までを演じるので、熟年になり、老成してゆく武蔵のプロセスをしっかり演じて行きたいと、抱負を語り、しかしドラマの武蔵はまだ二十一才なのでこの先が長く大変だと、述懐めいた言葉で終わりました。会場からは、お通さんは来ないのかなーと、ささやく声も聞こえました。

開会式の後、会場に移動し、展示を見学しました。今回の展示は武人の画技、武道の伝書、武人の手紙、刀剣等々、各品々の所蔵者は個人、博物館、寺院など合計百五十の名が挙がっており、企画委員は展示品の選定や出品の交渉に大変な努力をされたと思います。敬意を表します。

【取材】広報部会・佐藤幸彦

新しい交流の輪を求めて

都内歴史系博物館などに
アンケート調査を実施

当友の会も設立3年目を迎えました。広報部会では今後他の「友の会」組織との交流の輪を少しでも広げ、会の活性化を図るためその第一歩として都内36の公立歴史系博物館(「資料室」を含む)と、東京都歴史文化財団傘下の7館に対してアンケート調査をお願いしました(回収31館、回収率72%)。

その結果の概要をお知らせします。

◇

「友の会」組織の在るのは6館

「友の会」を有するのは6館(回答

のあった館の19%)で、足立区立郷土博物館、豊島区立郷土資料館、文京ふるさと歴史館、東京文化会館、東京都庭園美術館、東京都写真美術館です。なお、北区飛鳥山博物館は設立に向け準備中とのこと。

「会報・機関紙」の発行は3館

友の会がある6館のうち「会報・機関紙」を発行しているのは、足立区立郷土博物館、文京ふるさと歴史館、東京文化会館の3館のみで、東京都庭園美術館は「美術館ニュース」に掲載されているとのこと。

「会報・機関紙」を贈呈願える2館

足立区立郷土博物館と文京ふるさと歴史館では今後「会報・機関紙」をお送りいただけるとの回答を得ましたので、『えど友』編集の参考にしていきたいと考えています。

『えど友』を20館へ発送

ご回答いただいた31館のうち、65パーセントに当たる20館から『えど友』を今後送付願いたいとの希望が寄せられましたので、早速13号からお送りしました。

◇

以上の結果を踏まえて、他の友の会との意見交換の場をいずれ設定したいと考えていますが、会員の皆さんからも最寄りの博物館の「友の会」・「会報・機関紙」の情報をぜひ事務局までお寄せいただきたいと思います。

【担当】広報部会・菅沼和男



えど友プラザ

友の会会員のページ

●最新情報は、ホームページ「えど友Web」で！

友の会の自主運営です。友の会の最新情報、お知らせ、活動予定や会報「えど友」のバックナンバー（Web版）もご覧になれます。会員のHPもご紹介しします。詳細はHPを参照ください。

アドレスは、<http://www.edo-tomo.jp/>

樋口一葉と文京区

大松 駿一

「時は今まさに初夏也。衣がへもなさではかなはず。ゆかたなど、大方いせやが蔵にあり」。明治28年（1895）5月17日に書かれた樋口一葉の日記の一節である。惜しまれた死の前年のことで、文中の「いせや＝伊勢屋」は文京区本郷にあった質店。一葉の窮状ぶりが分かる。

皮肉なことに、来年発行が予定されている新五千円札には、その一葉の肖像が用いられるという。

さて、樋口一葉（本名なつ・奈津とも）は、私が住んでいる文京区にゆかり

が深い。

父親が病死した後の明治23年5月、中嶋歌子が主宰する「萩の舎」（はぎのや＝文京区春日）に18歳で内弟子として住み込み、和歌と古典の勉強を続けたが、9月には本郷菊坂に母と妹を住ませ、仕立物や洗い張りの内職で暮らしを立てつつ、小説家の道を歩み始めた。

この地を選んだのは、萩の舎に近いこともあったが、東大赤門前の法真寺隣りに4歳から6年間住んだことがあり、親近感があったのだろう。菊坂には今も「一葉ゆかりの井戸」が残されていて、一葉文学の発祥の地として訪れる人が多い。

暮らしは、親子三人で懸命に働いたが苦しく、当時のことから質屋通いとなる。それが「伊勢屋質店」で、日記に「此夜さらに伊せ屋がもとはしり



樋口一葉

て」などと、たびたび登場する。この質屋さんの建物は、当時の面影のまま写真スタジオとして使われていて、区民の間で保存運動が起きている。

それはさておき、一葉が小説家を志したのは、萩の舎の姉弟子・田辺竜子（三宅花圃（かほ））が『藪の鶯』を書いて文壇に迎えられたことに刺激されたからという。原稿料は安く『うもれ木』の場合、一枚25銭。計11円75銭だったと菅聡子『時代と女と樋口一葉』にある。

江戸博クリップ

最近、豆の人気の高い。ころころしたカタチは見ていて和めるし、高たんぱくで低カロリーなものダイエットに効きそう。とあるファッション誌に出ていた、いろいろな豆の写真は、その種類と色彩の豊かさもあり、とても印象的だった。

「お豆」というと、何が思い浮かぶだろうか。大豆・小豆・豌豆（えんどう）・空豆（蚕豆）……。1874年（明治7）に発行された『東京府志料』には、

さまざまな種類の豆が、主に武蔵野台地に位置する村々（現在の中野・杉並・板橋・練馬区など）で、盛んに作られていたことが伺える。豆は当時

まめな話

学芸員 田中 実穂（管理係）

の貴重なたんばく源であり、「どのように食べるか」を考え抜いた結果、現代まで伝わる加工品や献立が生み出された。

今から約130年前の東京は、かのように人々の糧を支える大地だったと思うと、なんとも不思議な気がする。

おおむね豆には、「気分をおだやかに」する作用があるそうだ。江戸時代に発行された『本朝食鑑』（ほんちょうしょっかん）にはその記述が目立つ。時代を超えて、求めるモノは同じなのだろうか。この頃は黒豆茶や刀豆（なたまめ）茶など、より摂りやすい献立も増えてきた。これから暑くなる季節、ちょっと試してみようかなと、心が動いている。

◆このコラムは学芸員が執筆しています。

樋口家のほぼ一か月分の生活費に当るが、毎月一作書いているのではないから、生活は相変わらず苦しい。

下谷龍泉寺町に移ったのは21歳の時。雑貨や駄菓子などを商う小店を開いて生活を支え、余暇を著作活動に当てることにした。この地には有名な一葉記念館があるが、よくこれだけの資料を集めた后感心させられる。昔の吉原の近くで、このときの体験が後年の『にぎりえ』や『たけくらべ』に生かされている。

商売は忙しかったが、暮らしは楽にならない。質屋通いはつづいて「夕刻より着物三つよつもちて、本郷の伊勢屋がもとにゆく。四円五十銭かり来る」などとある。下谷に移転後も伊勢屋との縁が切れなかったのは、信頼関係が生まれていて、多く貸してくれたからだろう。

一年足らずで本郷にもどり、丸山福

山町に住んだのは、執筆に専念するためだった。日記に「阿部邸の山にそひてささやかなる池の上にたてあるがありけり。(中略)家賃は三円也」とある。阿部邸は備後福山藩・阿部伊勢守の中屋敷だった地で、その崖下のうなぎ屋の離れだった。この家は明治43年の台風による崖崩れで跡形もなくなっ

てしまい、終焉の地を語る記念碑だけがポツンと建っている。

一葉の葬儀に際しては、同じ文京区の千駄木に住んでいた森鷗外が陸軍軍医の制服を着て騎馬で葬列に加わりたいたいと申し入れたが、樋口家は内輪だけのひそやかな葬儀を願ってこれを固辞したと伝えられている。

投稿を大募集中！

～テーマは自由、お気軽に～

皆さんからの投稿を大募集しています。テーマは江戸・東京に関連したものならご自由です。身の回りや町の話、趣味や関心事、疑問質問——などを、お気軽にご寄稿ください。

〇●〇

◆投稿要領——随時掲載します。

短文(表題も)を、手紙かハガキ、HPからメールで投稿。イラスト・図版や写真も歓迎。採用分には記念品進呈。応募締切:毎月末日。会員番号、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記。友の会事務局「投稿」係あて。

江戸東京博物館ミュージアムショップ 名店めぐり〈6〉

千代紙と幼い日々 「いせ辰」

過ぎ去った日々と千代紙。誰もが何かの思い出に心暖まることでしょう。ミュージアムショップ内に懐かしい巾着や色紙を見つけ、「いせ辰」さんの谷中本店を訪ねました。

元治元年(1864年)創業の店内は、どれも欲しくなる品物が所狭しと並んでいます。千代紙は木版摺りと印刷を含めて、約1000種類もあるそうです。この他にナブキン、手ぬぐい、はがき、壁掛け、等々数えきれません。

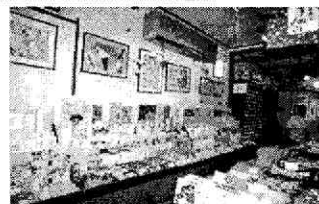
現在の社長は広瀬正雄さんで四代目です。初代の辰五郎さんは農家から日本橋堀江町の団扇問屋、伊勢屋惣右衛門に奉公後、のれん分けをしてもらい、同じ堀江町に錦絵と団扇製作の問屋を開きました。二代目の時に神田弁慶橋

に店を移しました。

二代目は文明開化に注目し、築地居留地や横浜外国商館に千代紙細工や錦絵を売り込みました。この頃、幽霊画で有名な河鍋晩斎や浮世絵師などと交際を広めています。三代目は芸能趣味で、錦絵の鑑定に見識を持っていました。また、江戸千代紙の代表作の復古的出版「千代紙百種、鶴の巻」「宝船集」などの著書があります。

関東大震災で千代紙の版木はことごとく失われましたが、三代目は苦勞の末、約1000種類の千代紙を復活させました。

四代目は第2次世界大戦という悪い時世とぶつかりましたが、庶民の生きる道を信じて、裸一貫から現在の店を復活させました。すでに五代目を継がれる方



千代紙のいせ辰谷中本店
台東区谷中2-18-9
江戸情緒いっぱい店内

も決まっているそうです。

営団地下鉄千駄木駅、団子坂口を出て三崎(さんさき)坂を登りはじめて3分くらいの場所に千駄木店また3分くらいで谷中本店に着きます。この他に横浜店もあります。散策のおりにちょっとお店を覗いてみてはいかがでしょうか。優美で楽しい「お江戸の伝統」がいっぱいで、しばらく離れられなくなるとうけあいです。

【取材】広報部会・岡橋園子

事業部会だより

平成15年度計画は4ページ参照

特別内覧会

企画展「徳川将軍家 展」

- ・開催日: 7月18日(金) 18:00~20:00 (受付17:30)
- ・申込締切: 7月9日(水) 必着
- ・会場: 江戸東京博物館・1階ホール/展示室
- ・同伴者: 2名まで可(氏名をハガキに連記)
- ・参加費: 500円(会員・同伴者とも。当日払い)

締切迫る!

創作講座

「江戸扇子」

講師 松井宏さん(江戸扇子職人)

- ・開催日: 7月12日(土) 14:00~16:00
- ・会場: 江戸東京博物館・1階 学習室2
- ・定員: 20名(ハガキ申込で先着順)
- ・参加費: 2,500円

◆扇の種類は、用途や作法によって大きさも色彩も千差万別。この夏は、あなただけのオリジナル扇子で、涼を楽しんではいかがですか。

友の会セミナー

第12回「歌舞伎を楽しむ ~伝統演劇と日本文化~」

講師 葛西聖司さん(NHKエグゼクティブ・アナウンサー)

- ・開催日: 9月11日(木) 18:00~19:30 申込締切: 8月28日(木) 必着
- ・会場: 江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員: 100名(会員本人に限る) 参加費: 200円(当日払い)

◆葛西アナウンサーは歌舞伎に非常に造詣が深く、作品に魅力に留まらず、歴史的背景、色彩、デザイン、音など、伝統を背景にした日本人の感性にポイントをおいて探っていきます。

講師略歴: かさい・せいじ 1951年生まれ。中央大学法学部卒業。NHKエグゼクティブ・アナウンサー。山梨英和大学非常勤講師、日本体育大学非常勤講師。

講座受講 申込方法

お申込は
通常ハガキで

●通常ハガキでお申してください。返信連絡はいたしません。申込済の方は当日、受付で登録ください。事前申し込みがないと受講できません。必ず申し込みをしてからご参加ください。

▼申込方法:

通常ハガキに《開催日「テーマ名」応募》と、

①会員番号②氏名③〒住所④電話番号を明記。会報、友の会のご感想・ご要望もどうぞ。

・各講座ごと、会員限定(一部同伴可)、1人1通。

▼申込先: 130-0015東京都墨田区横網1-4-1

江戸東京博物館友の会事務局あて

▼締め切り: 各講座案内を参照(必着)

会員優待のお知らせ

【企画展】江戸開府400年 開館10周年記念

発掘された日本列島2003 ~新発見考古速報展~

開催中 6月3日(火)~7月9日(水) 月曜休館

- ・図録 定価1,700円(税込み)、会員10%割引1,530円
- *企画展物販コーナーのみで販売。会員証提示
- *ミュージアムショップでは割引になりません。

会員: 一般250円、65歳以上120円、大専門生200円
同行者: 一般400円、65歳以上200円、大専門生320円

【次回予告】企画展「徳川将軍家 展」
会期 7月19日(土)~8月31日(日)

活動に参加しよう 各部会員を募集!

事業部会=事業の企画・運営、広報部会=くえど友の編集・PR活動、総務部会=各種案内の発送・受付
ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。



隔月(奇数月)刊。次号は9月1日発行
<http://www.edo-tomo.jp/>

江戸東京博物館友の会
会報「くえど友」第14号

発行日 平成15年(2003)7月1日
発行 江戸東京博物館友の会事務局◎
130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
Tel. 03-3626-9910

編集・制作 友の会広報部会

発行・編集人/佐山彰(副会長) 編集主幹/大松聖一
編集/松原良、岡橋園子、菅沼和男、佐藤幸彦、小柳英二郎、
龍口達策 レイアウト・版下制作/巻瀾彰